

平成19年3月期 中間決算説明会資料

曾田香料株式会社

代表取締役社長 光安哲夫

目次

- I. 会社概要
- II. 平成19年3月期 中間決算概要(連結)
- III. 平成19年3月期 中間決算概要(単体)
- IV. 平成19年3月期 業績予想
- V. 中期経営課題(平成18~20年度)について

I . 会社概要

会社概要

1) 設 立 昭和47年9月(創業 大正4年4月)

2) 資 本 金 14億9千万円

3) 事 業 所 本社(東京都中央区日本橋小伝馬町)、
野田工場(千葉県野田市)、郡山工場(福島県郡山市)、
大阪支店、札幌営業所

4) 関係会社

連 結 子 会 社	岡山化学工業(株)、(株)ソダアクト
持分法適用関連会社	台湾曾田香料(股)、遠東香料(股)
非 連 結 子 会 社	曾田香料(昆山)有限公司

5) 従業員数(H18年9月末有価証券報告書基準)

連 結 348名

単 体 288名

6) 事業内容

フレグランス（香粧品香料）

シャンプー・リンス、石鹸、芳香剤、入浴剤等に使用



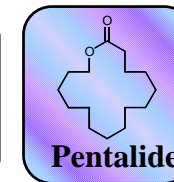
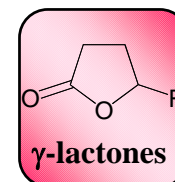
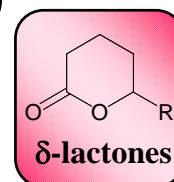
フレーバー（食品香料）

飲料、菓子、調味、たばこ、飼料等に使用



合成香料・ケミカル

- ・ラクトン類、大環状ムスク等のフレグランス・フレーバー素材
- ・ガス着臭剤（都市ガス・LPG用）
- ・医薬・農薬中間体、電子材料等



Ⅱ. 平成19年3月期 中間決算概要(連結)

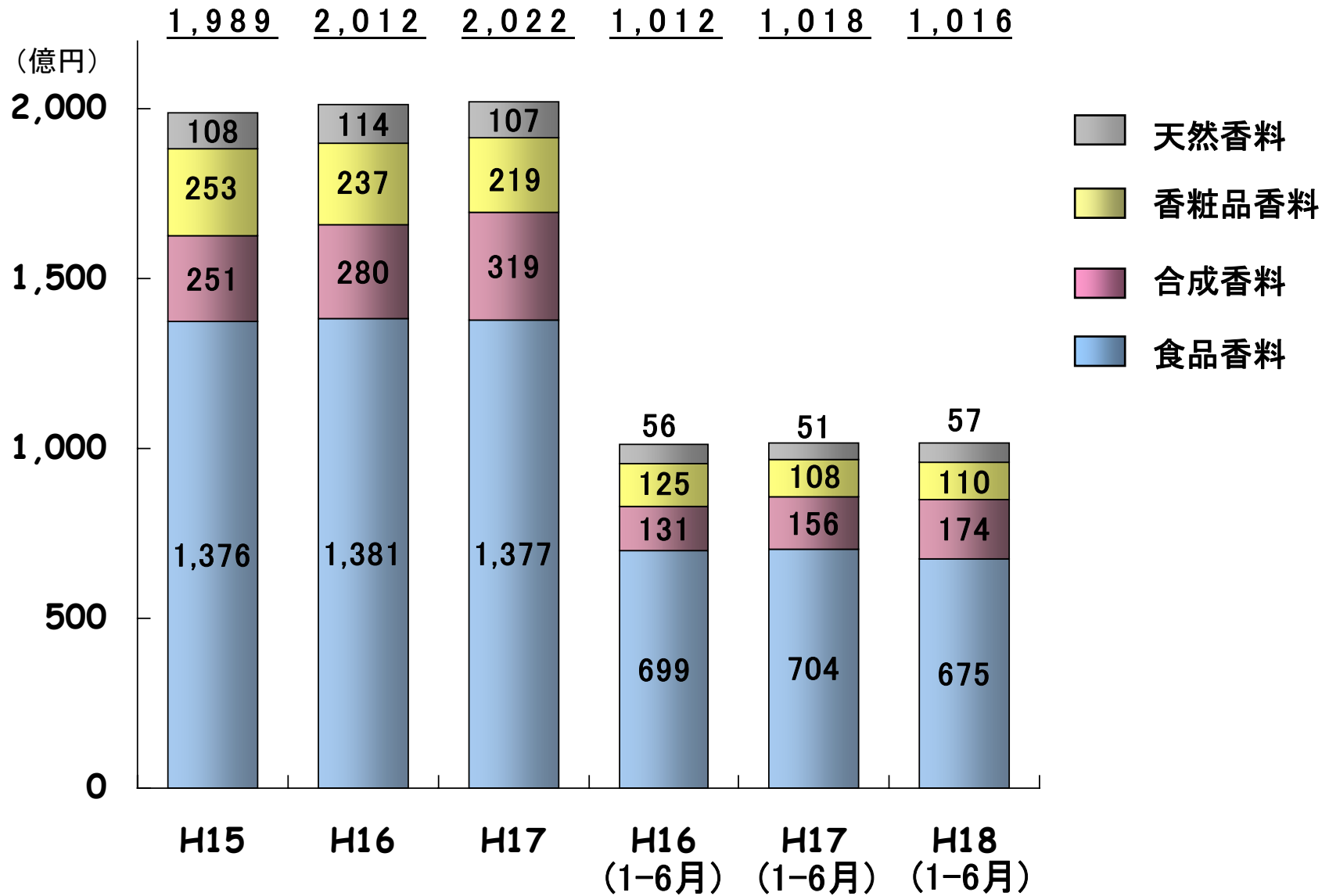
連結業績の概要(収益)

億円

	前中間期		当中間期		増減	
	H17/9	構成比(%)	H18/9	構成比(%)	金額	%
売上高	95.2	100.0	95.4	100.0	+ 0.2	+0.3%
売上原価	67.7	71.2	67.4	70.7	▲ 0.3	▲0.5%
売上総利益	27.4	28.8	28.0	29.3	+ 0.6	+2.1%
販管費	19.0	19.9	18.4	19.2	▲ 0.6	▲3.1%
営業利益	8.5	8.9	9.6	10.1	+ 1.1	+13.7%
経常利益	8.5	9.0	9.8	10.3	+ 1.3	+14.8%
税引前中間純利益	8.5	8.9	10.2	10.7	+ 1.7	+20.5%
中間純利益	5.3	5.6	6.5	6.8	+ 1.2	+23.0%

国内香料市場推移(製品販売金額ベース)

(日本香料工業会 販売統計より)



部門別概況(1)

フレグランス

国内向けでは主力のシャンプー・リンス等の頭髪用化粧品香料や消臭・芳香剤が回復し、アジア向け調合香料の輸出も伸び、全体で増収。

	前中間期 H17/9	当中間期 H18/9	前期比	
			増減額	増減率
売上高	8.1	8.6	+ 0.5	+5.6%
うち製品	5.9	6.6	+ 0.7	+11.5%
うち商品	2.2	2.0	▲ 0.2	▲10.5%

【国内香料業界の製品前年同期比伸長率(H18年1-6月販売金額ベース)】

国内平均

フレグランス + 1.9%

部門別概況(2)

フレーバー

食品香料は主力の飲料用が天候不順の影響もあって伸び悩み、たばこ香料も国内市場向けが低調に推移。

億円

	前中間期 H17/9	当中間期 H18/9	前期比	
			増減額	増減率
売上高	53.5	48.1	▲ 5.4	▲ 10.1%
うち製品	27.1	25.2	▲ 1.9	▲ 7.1%
うち商品	26.4	22.9	▲ 3.5	▲ 13.2%

【国内香料業界の製品前年同期比伸長率(H18年1-6月販売金額ベース)】

国内平均

フレーバー ▲ 4.0%

部門別概況(3)

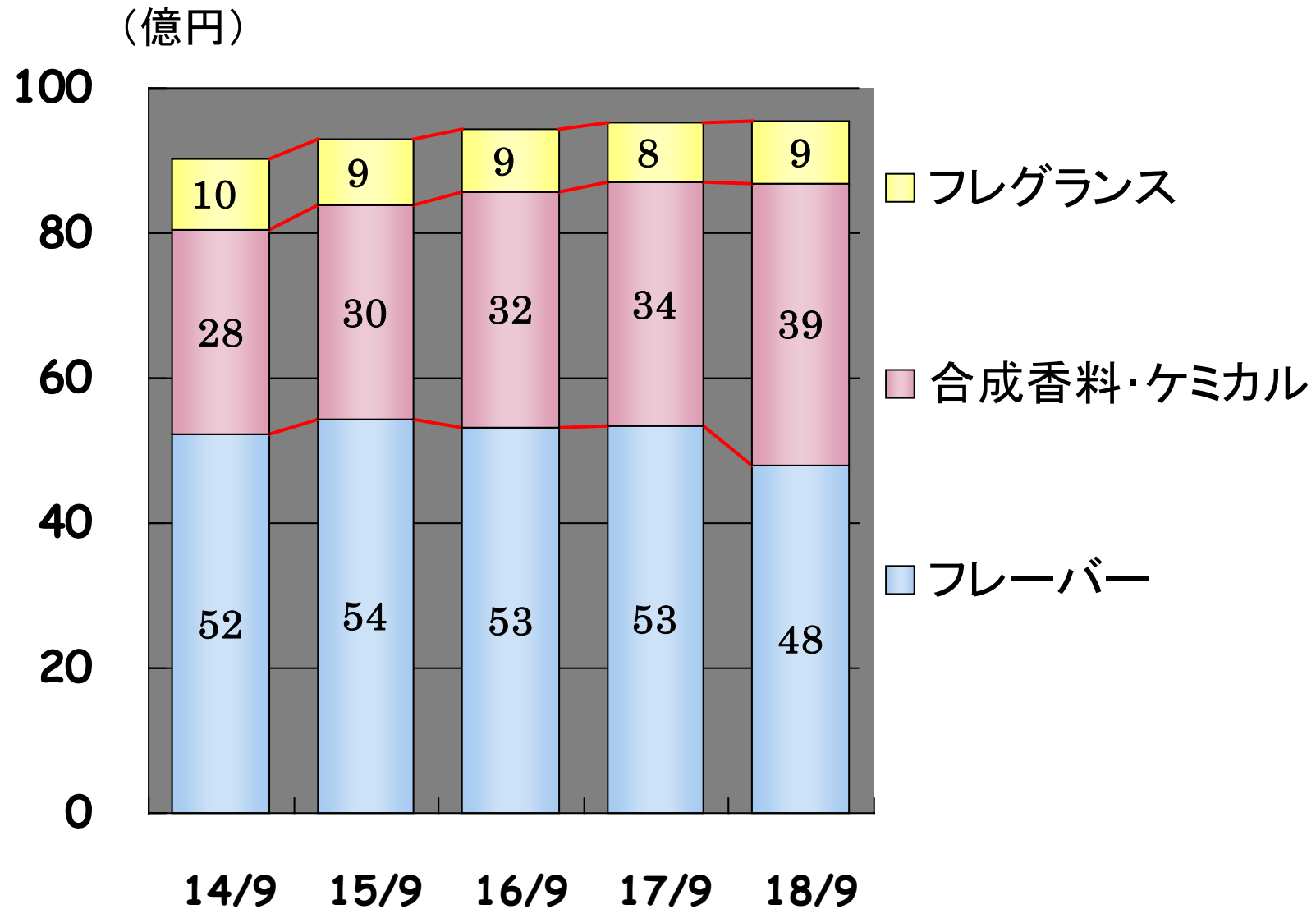
合成香料・ケミカル

合成香料は堅調に推移し、
ケミカルも化成品や着臭剤が伸び、電子材料も続伸し、
全体では大幅な増収。

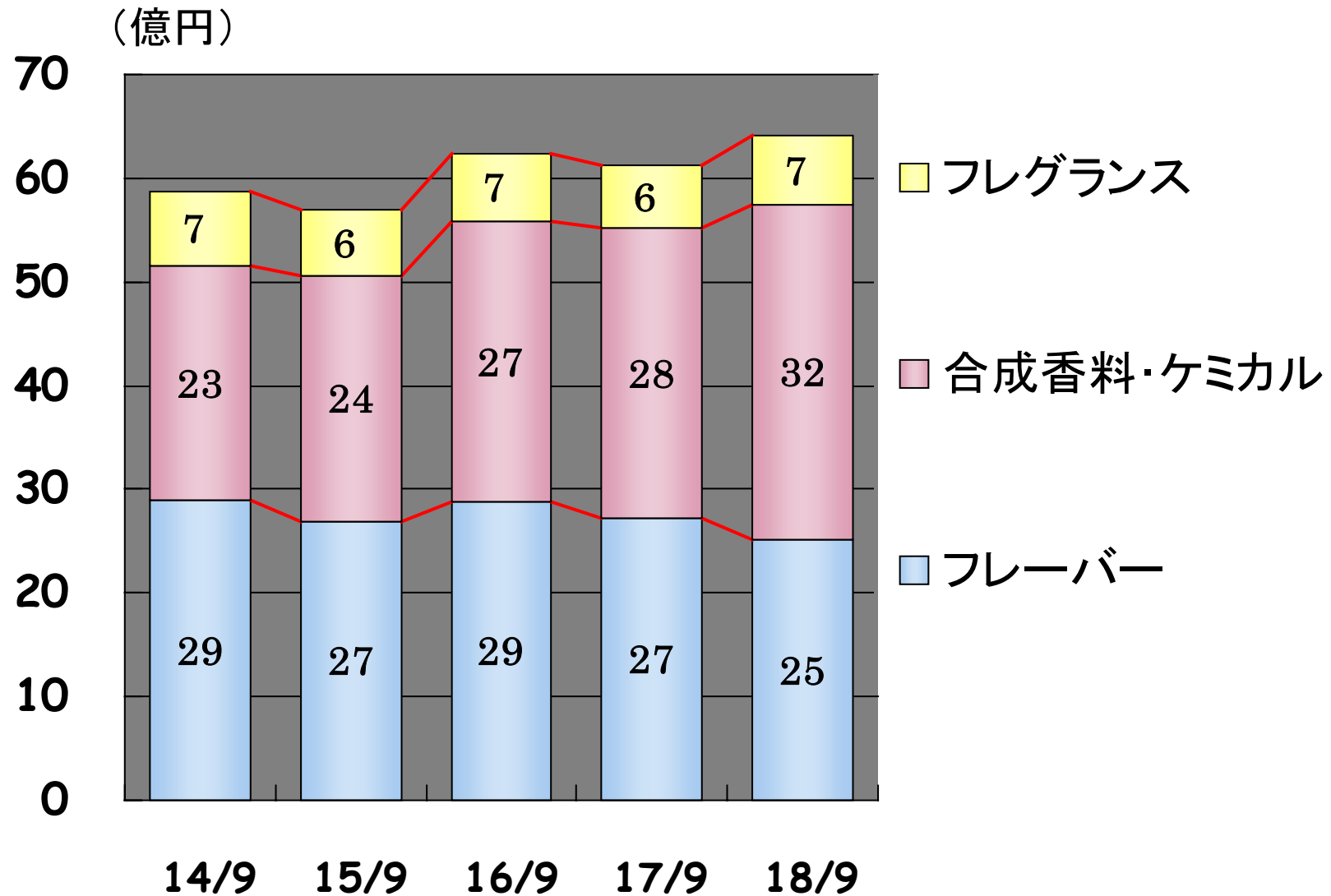
億円

	前中間期 H17/9	当中間期 H18/9	前期比	
			増減額	増減率
売上高	33.5	38.7	+ 5.2	+15.5%
うち製品	28.1	32.3	+ 4.2	+14.9%
うち商品	5.4	6.4	+ 1.0	+19.0%

部門別売上高推移

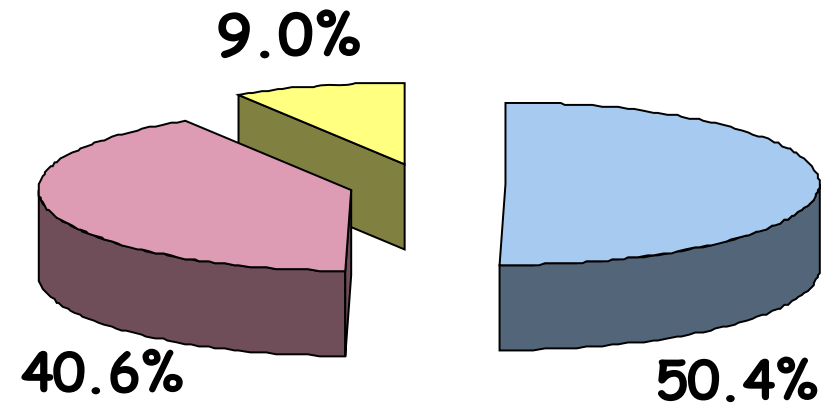


部門別売上高推移(製品)

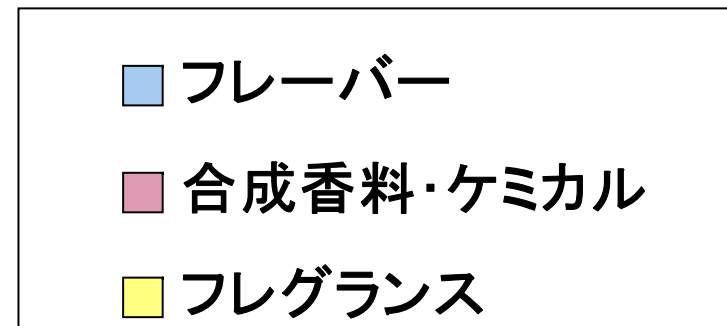
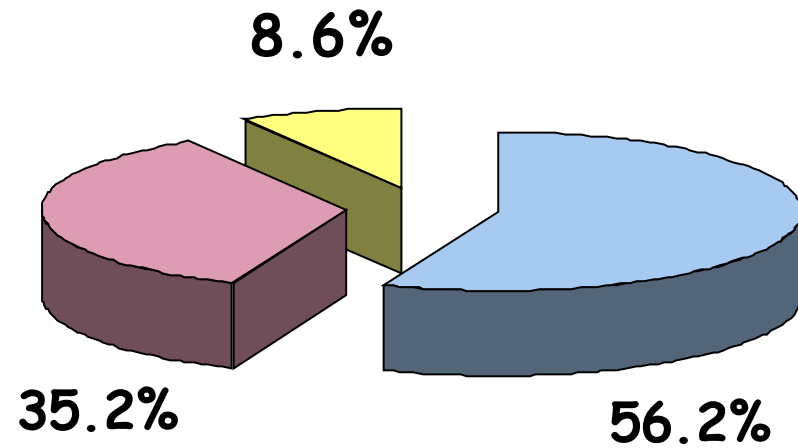


部門別構成比率

H18/9



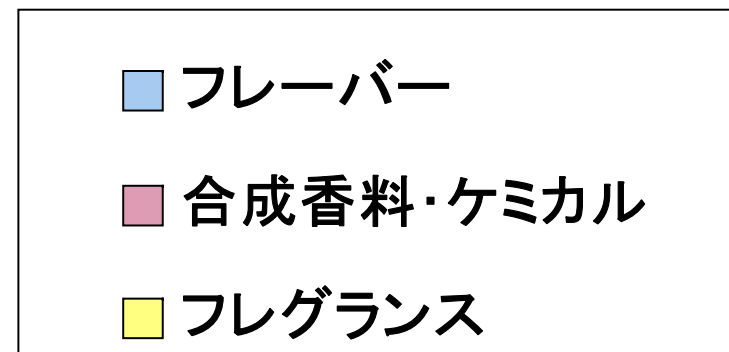
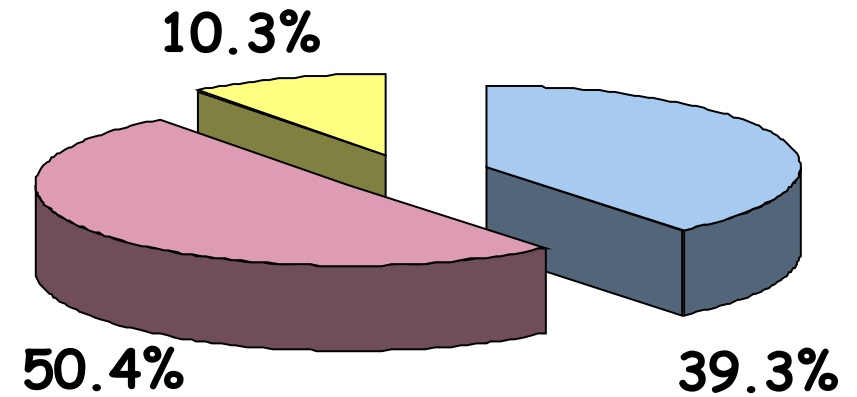
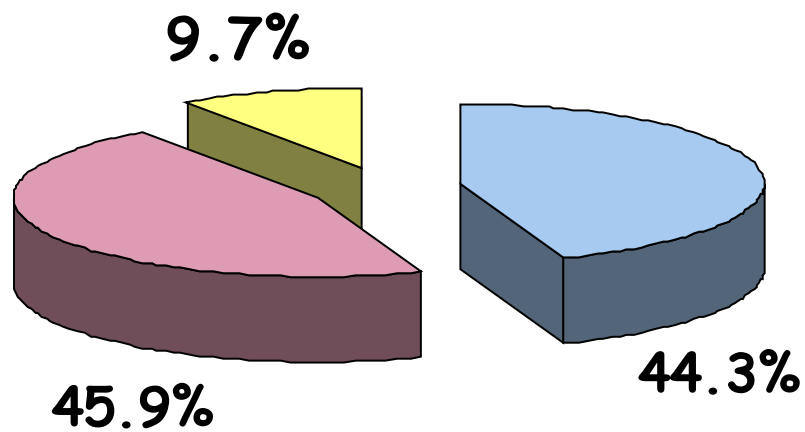
H17/9



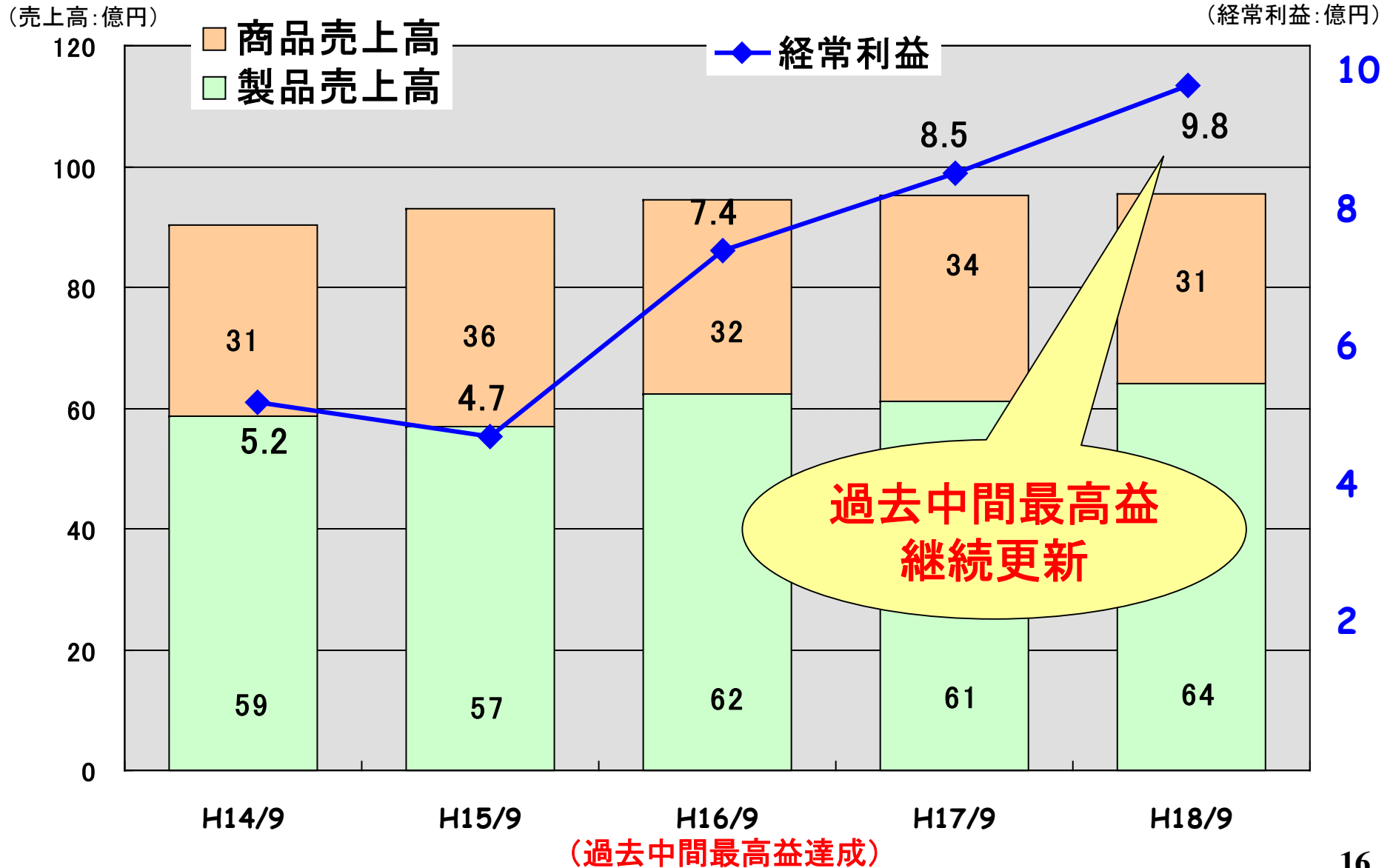
部門別構成比率(製品)

H18/9

H17/9

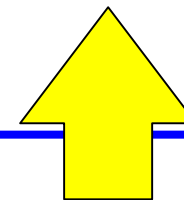


中間期の製品・商品売上高及び経常利益推移



営業利益変動要因分析

H17/9	H18/9	増加額
8.5億円	9.6億円	1.1億円



増益要因

①収益構造の改善による増益

- ・付加価値の高い自社製品の拡販による収益改善

②コストダウン、生産効率向上による収益力強化

- ・原料購買VA、製造原価・経費削減等

連結業績の概要(財政状態)

億円

	H17/9	H18/9	増 減
総 資 産	165.5	176.2	+10.7 (+6.5%)
純 資 産	77.5	87.7	+10.2 (+13.2%)
1 株 当 た り 純 資 産	774.93円	877.12円	+102.19円 (+13.2%)

R O E	14.2%	15.3%	+1.1 ポイント
自己資本比率	46.8%	49.8%	+3.0 ポイント
1 株 当 た り 中 間 純 利 益	52.96円	65.12円	+12.16円 (+23.0%)

貸借対照表(資産の部)

億円

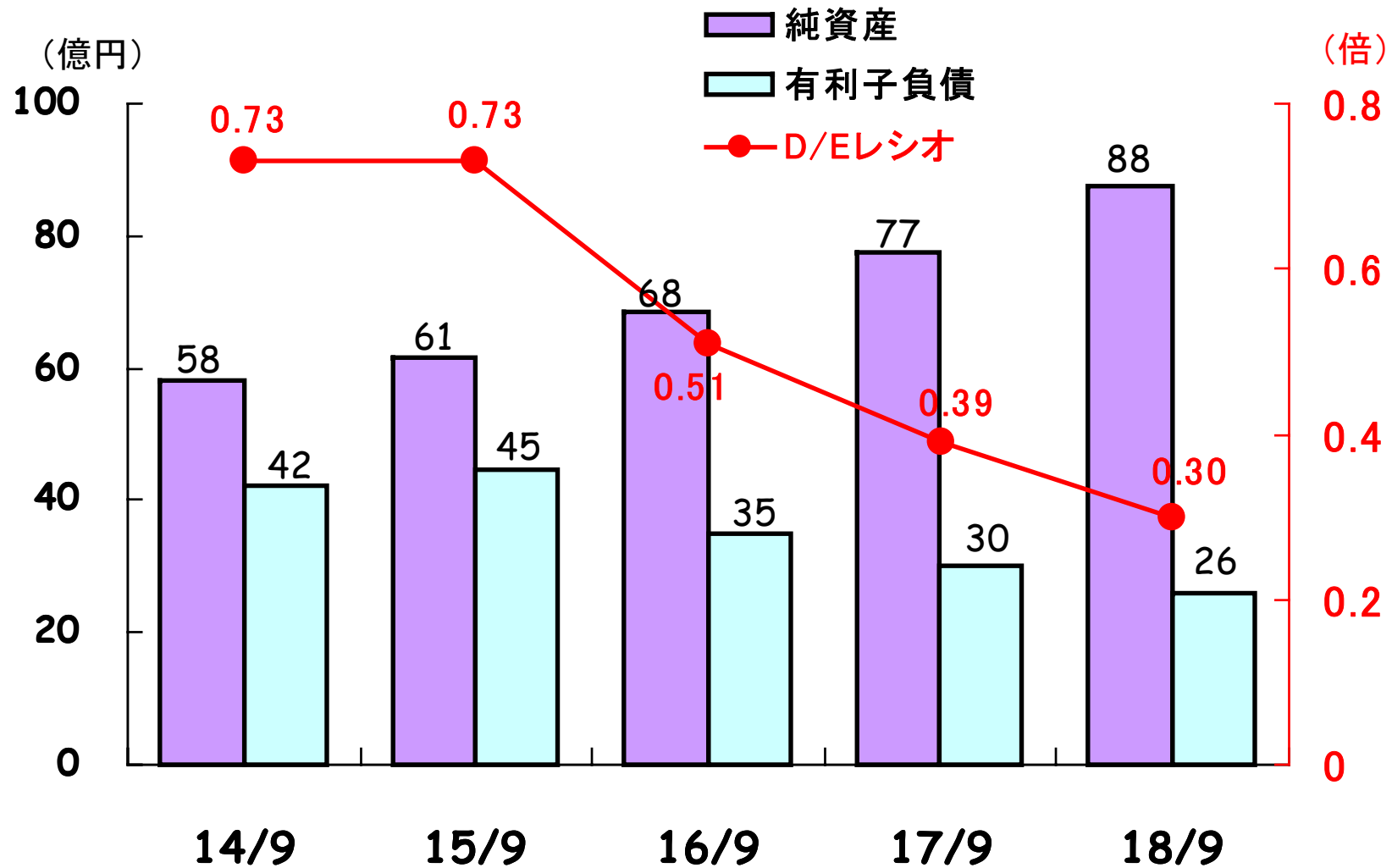
	H17/9	H18/9	増 減	特記事項
資 産 合 計	165.5	176.2	+ 10.7	
流動資産	103.0	111.8	+ 8.8	現預金・売上債権の増加等
有形固定資産	42.2	44.7	+ 2.5	設備投資等
無形固定資産	1.6	1.0	▲ 0.6	
投資その他	18.8	18.7	▲ 0.1	

貸借対照表(負債・純資産の部)

億円

	H17/9	H18/9	増 減	特記事項
負 債 合 計	88.1	88.5	+ 0.4	
流 動 負 債	67.4	61.1	▲ 6.3	短期借入金・社債の減少等
固 定 負 債	20.7	27.4	+ 6.7	長期借入の増加等
純 資 産 合 計	77.5	87.7	+ 10.2	利益剰余金の増加等
有利子負債残高	30.0	26.0	▲ 4.0	収益伸長により有利子負債を 圧縮
D/Eレシオ(倍)	0.39	0.30	▲ 0.09	

純資産・有利子負債とD/Eレシオ



キャッシュ・フローの状況

億円

	H17/9	H18/9	増 減
営業活動によるCF	7.6	9.0	+ 1.4
投資活動によるCF	▲ 2.9	▲ 3.3	▲ 0.4
フリー・キャッシュ・フロー	4.7	5.7	+ 1.0
財務活動によるCF	▲ 3.5	▲ 4.7	▲ 1.2
現金及び現金同等物の増加額	1.2	1.0	▲ 0.2
現金及び現金同等物中間期末残高	19.7	21.9	+ 2.2

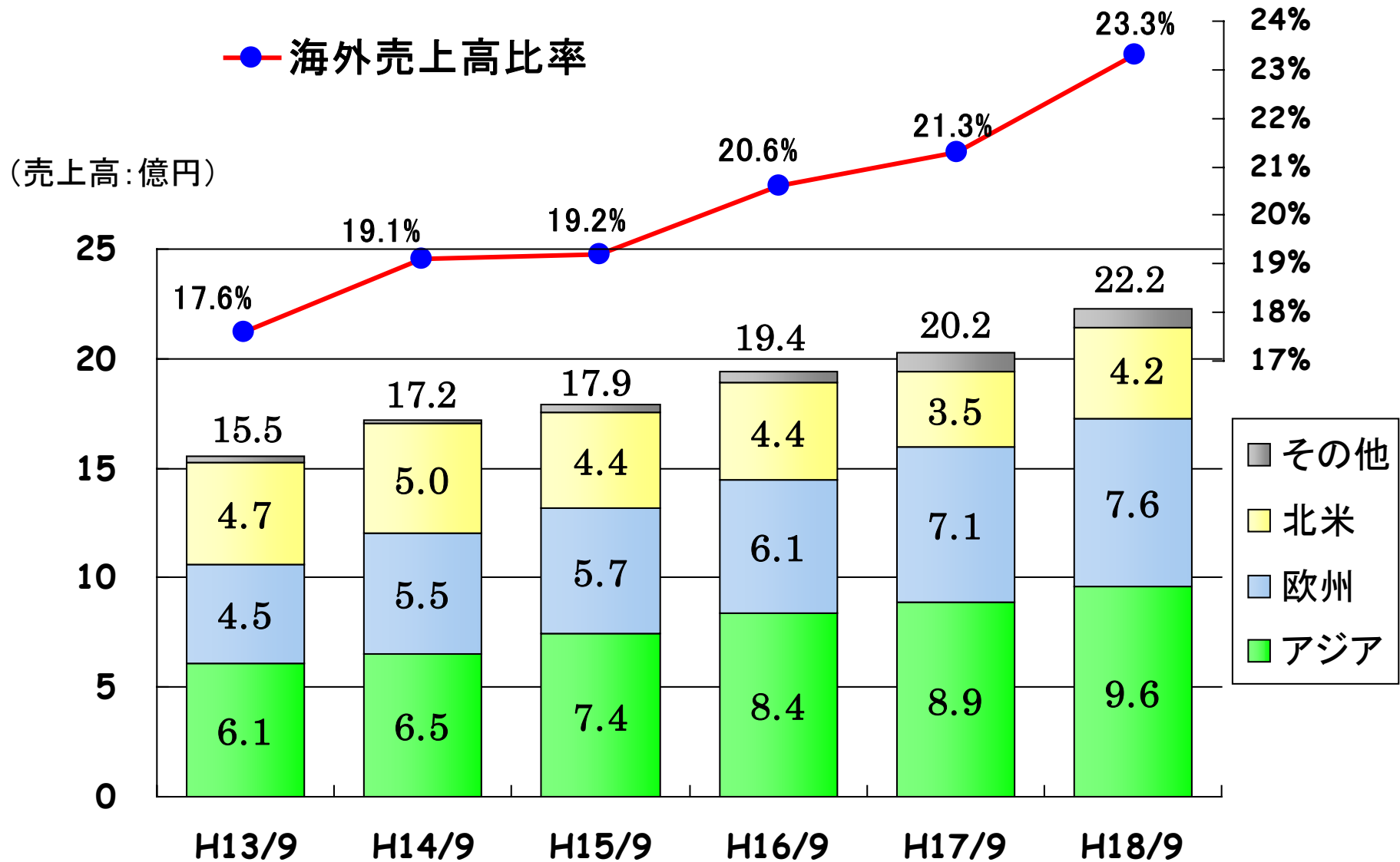
	H17/3		H18/3		H19/3
	中間	期末	中間	期末	中間
自己資本比率	42.2%	43.8%	46.8%	49.0%	49.8%
時価ベースの自己資本比率	37.1%	46.5%	48.6%	68.0%	59.7%
債務償還年数(年)	2.1	2.1	2.0	2.0	1.4
インレスト・ガバレッジ・レシオ(倍)	52.9	53.1	53.5	59.6	138.2

設備投資・減価償却費・試験研究費

億円

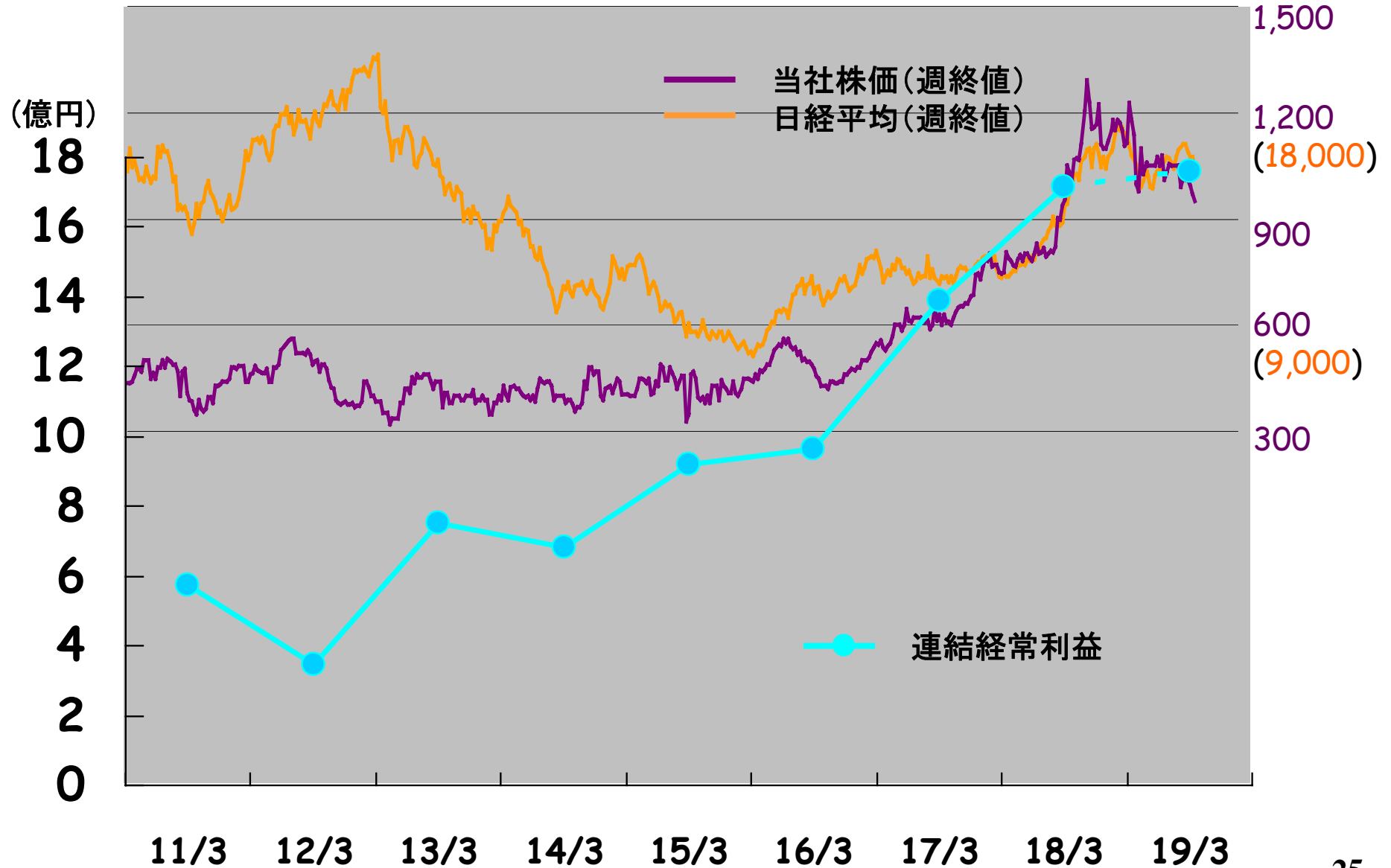
	H17/9	H18/9	増減
設備投資	0.7	1.0	+ 0.3
減価償却費	3.1	3.3	+ 0.2
試験研究費	5.1	5.0	▲ 0.1

海外売上高の伸長



経常利益(連結)と株価推移

当社株価 単位:円
 (日経平均 単位:円)



Ⅲ. 平成19年3月期 中間決算概要(単体)

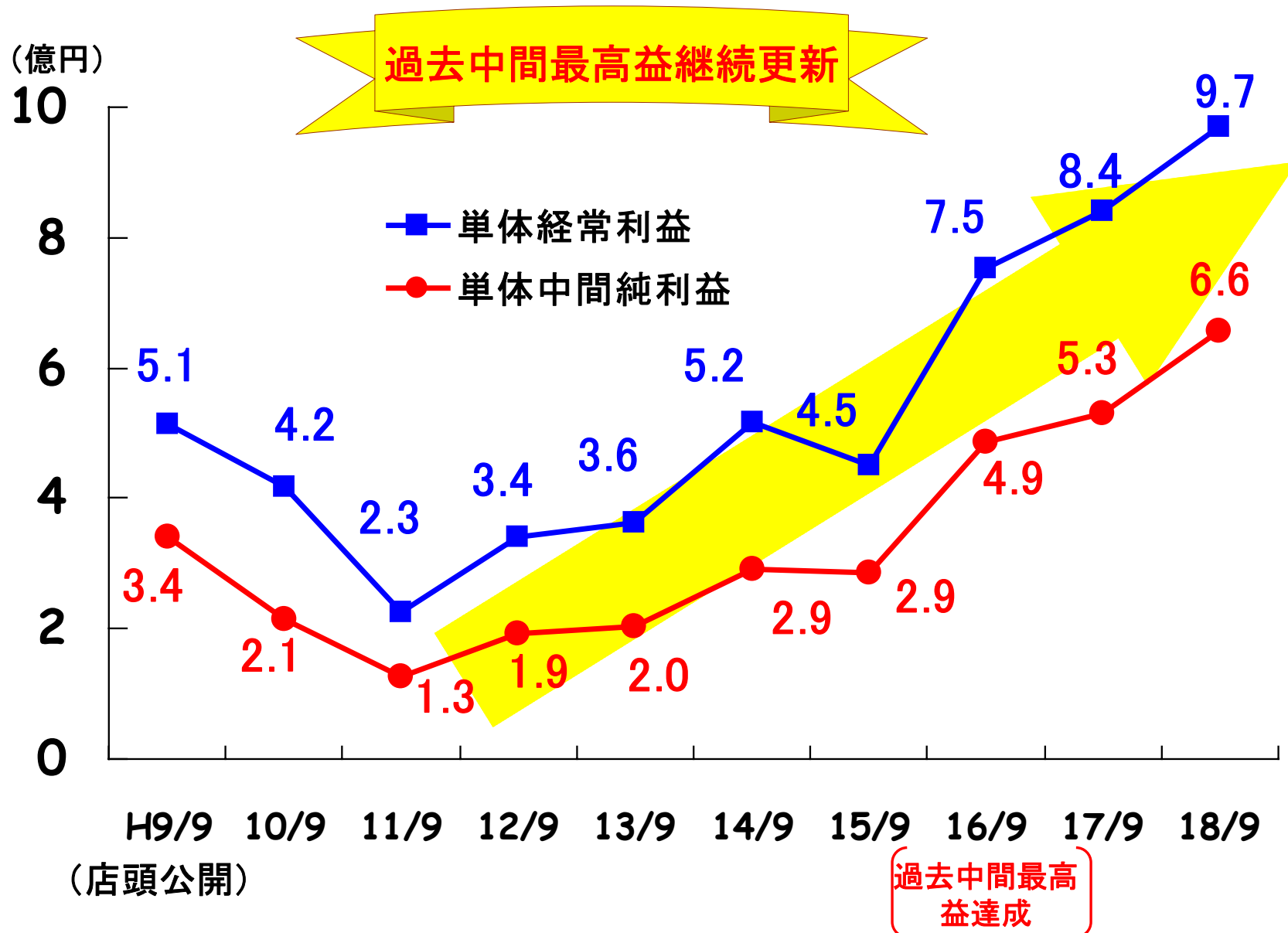
単体業績の概要

億円

	H17/9	H18/9	増 減
売 上 高	94.3	94.5	+0.2 (+0.3%)
営 業 利 益	8.2	9.3	+1.1 (+14.0%)
経 常 利 益	8.4	9.7	+1.3 (+15.4%)
中 間 純 利 益	5.3	6.6	+1.3 (+23.8%)
総 資 産	160.5	170.8	+10.3 (+6.4%)
純 資 産	73.1	83.1	+10.0 (+13.8%)
1 株 当 た り 中 間 配 当 金	5.0	6.0	+1.0 (+20.0%)

(平成18年度:年間1株当たり配当金12円を予定)

中間期の経常利益・中間純利益推移(単体)



IV. 平成19年3月期 業績予想

平成19年3月期 市場環境

- フレグランス → 業界の販売金額は横這いもしくは微減傾向
依然厳しい環境
- フレーバー → 業界の販売金額は微減もしくは横這い傾向
ユーザーの価格引下げ要請が厳しく競争
激化
- ケミカル → 合成香料は海外市場が増加傾向
ケミカルは、化成品・着臭剤は横這いもしくは
増加傾向
電子材料市場は増加傾向

平成19年3月期 業績予想

億円

		H18/3	H19/3(予想)	増減率
連結	売上高	185.0	189.0	2.2%
	営業利益	16.9	17.7	4.9%
	経常利益	17.2	17.6	2.5%
	当期純利益	10.5	10.9	4.1%
単体	売上高	183.3	187.0	2.0%
	営業利益	16.4	17.2	4.8%
	経常利益	16.8	17.3	3.2%
	当期純利益	10.3	10.8	4.9%

V. 中期経営課題(平成18～20年度)に ついて

事業環境

- ・ユーザーの最終製品市場（化粧品・食品）の成熟化
- ・少子高齢化が進行する一方、消費者の欲求の高度化、高機能・高品質製品への欲求の強まり
- ・食の安全・安心および健康志向の一層の高まり
- ・価格競争が厳しい中で、新製品開発力が求められ、益々レベルの高い競争へ



顧客ニーズを的確に捉えた各種製品の上市

高付加価値調合香料や先端技術を駆使した機能性香料素材の開発

魅力ある新製品の開発とスピーディーな提案

品質管理、トレーサビリティ体制の一層の強化

中期経営課題(平成18-20年度)

1) 全社方針

法令を遵守し、安全・衛生・防災・環境保全に努め、CSRの推進を企業経営の最優先課題として取り組む

2) 中期目標：

ユニークで存在感のある香料会社として
新たなステージへ飛躍

3) スローガン： 「Innovation by Aroma」
— 香料による新しい価値の創造 —

数値目標(平成20年度)

	前中経目標 (H18年度)	実 績 (H17年度)	中経目標 (H20年度)
営 業 利 益	—	16.8億円	20億円以上
売上高営業利益率	—	9.1%	10%以上
経 常 利 益	12億円以上	17.2億円	—
R O E	10%以上	13.5%	11%以上
R O A	8%以上	10.1%	11%以上
D / E レ シ オ	0.5倍以内	0.4倍	0.4倍以内

* ROE: 自己資本当期純利益率 ROA: 総資産営業利益率

* 資本利益率の各資本は期首・期末の平均

中期経営課題・施策

1. 事業構造の改革と事業拡大

1) 収益基盤の強化、新製品開発力の強化

- 3部門ごとに「選択と集中」を実行し、持続的な事業拡大へ
- 生産・販売・技術・研究開発が一体となり、製品開発における「顧客ニーズへの対応力」を強化



研究開発体制を、最終製品を対象としたグループ編成に変更

国内シェアアップ・自社製品比率の向上と、海外市場の開拓・拡販

2) 事業部門別課題

①フレグランス事業部門

国内市場縮小傾向の中、国内外のターゲットを絞り込み、
自社製品の売上を拡大

②フレーバー事業部門

営業と研究開発とが一体となって、重点ユーザーの
開発コンセプトを的確に把握し、既存フレーバーの拡販と
新規調合香料を開発、上市

③ケミカル事業部門

合成香料のコスト競争力強化と拡販
化成品事業の拡大

3) 中国(昆山)事業の拡大

曾田香料(昆山)有限公司の生産・販売体制の強化による
事業拡大

フレーバー、フレグランス、たばこ用調合香料の拡販



全社プロジェクトを設置して、経営資源を重点投入
H20年度中国(昆山)事業目標売上高11億円

2. 企業体質強化

1) 事業体質の更なる強化

前中経の成果を引き継ぎ一層の体質強化に努める

- ①比例費削減：購買VA、プロセス改善によるコストダウン。
- ②労務費の適正化：各部門における要員規模・年齢分布の適正化。
- ③資本効率化：有利子負債削減、効率的な設備投資の実施。
在庫水準の改善と在庫管理強化。

2) 人材育成の強化

- 社員の意識改革と、第一線営業マンの営業力強化
- 「Innovation by Aroma」に沿った創造力あふれる
組織風土の醸成と組織の活性化

これら課題・施策の確実な実施により

ユニークで存在感のある香料会社として
新たなステージへ飛躍

本資料中の平成19年3月期業績予想、見通し及び事業計画についての記述は、現時点における将来の経済環境予想等の仮定に基づいています。本資料において当社の将来の業績を保証するものではありません。

本資料に関するお問い合わせ

曾田香料株式会社

経理部

TEL : 03-5645-7340 (代)

FAX : 03-3668-6289 (代)